



# 学校だより

令和4年度 3月発行  
学校法人松蔭学園  
松蔭大学附属  
松蔭高等学校  
校長 川下 進

HP : <http://www.shoin.ed.jp/> Blog : <http://www.shoin.ed.jp/category/information/>

## 生徒の活躍

第67回全日本学生美術展の審査結果が発表になり、高校2年1組 山崎 悠亜が「佳作」に入賞、  
2月12日(日)～19日(日)東京都美術館の第1展示室にて展示されました。



## お知らせ

### 吹奏楽部 定期演奏会

3月26日(日) 開演 14:00(開場 13:30)

烏山区民センターホール (千歳烏山駅 徒歩2分) 入場無料

松蔭吹奏楽団: 現役部員 SBBと卒団生 AWEによる3部構成 16:30終了予定

ご観覧の方へ ご来場の際は、コロナ感染症対策にご協力ください。



## 令和5年3月5日に卒業式が行われました

穏やかな風に春を感じ、寒さもあと少しかと思える季節となりました。

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

入学時からコロナの猛威に惑わされながらも、みなさんは見事に乗り越え、高校の課程を修了しました。

これからまた新しい環境がみなさんを待っています。不安もあると思いますが、期待に胸を膨らませ新生活をスタートさせてください。母校はいつまでもみなさんを応援しています。



## 三年生の各賞の受賞者

卒業式において、様々な方面の活動で、顕著な功績を残した人が表彰されます。(敬称省略)

【学校長賞】	三年一組	田村 優
【東京都知事賞】	三年一組	田村 優
【(東京都私立中学高等学校)協会表彰】	三年一組	田村 優
【東京都私学財団奨励賞】	三年一組	細谷 胡奈
【日本私立中学高等学校連合会賞】	三年三組	宮地 由菜
【東京都高等学校体育連盟体育優良賞】	三年一組	藤田 美咲
	三年三組	大塚 湊

【東京都高等学校文化連盟賞】

三年二組 高橋 咲稀

【東京私立中学高等学校協会第八支部体育優良賞】

三年二組 中原 陸

【東京都吹奏楽連盟賞】

三年一組 伊藤 翼

【東京都高等学校野球連盟賞】

三年一組 萩原 麻怜

【第25回 高校生新聞社賞】

三年一組 小澤 尚英

三年一組 杉田 祥悟

三年二組 長 秀嗣

## 卒業式 送辞・答辞

今年度の卒業式の送辞・答辞の全文を公開いたします。

答辞には保護者の方や、在校生に向けたメッセージも含まれております。ぜひ、一読ください。

## 在校生 送辞

厳しい寒さが少しずつやわらぎ、登下校中にも温かい春の気配が感じられる季節となりました。三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

松蔭高等学校で過ごした三年間は、先輩方にとってどのような日々でしたか。コロナ禍で、多くの制限があり、我慢を強いられた日々、特に三年生は高校生活に最も影響を受けた学年だったのではないのでしょうか。でも、私たちから見た先輩方は、コロナなんかに負けず、いつも元気で輝いていました。先輩方と過ごした時間は私たち後輩にとって、かけがえのないものです。

球技大会では競技に応援に、すごいパワーで盛り上がっていて、どの種目でも決勝戦は三年生、団結力をうらやましく思いました。

文化祭、ステージ発表では迫力のあるダンスや演奏、有志の演技など、どれもすばらしく、今も鮮明に覚えています。もっと見ていたい、来年もやってほしい、と強く思いました。学年企画でも、三年生の脱出ゲームはとても楽しく、先輩方の明るい笑顔が校内を華やかに盛り上げていました。先輩方と一緒に写真を撮ったり、ゲームをしたりしたことが、とても嬉しかったです。

探究発表会では、私たちの発表に熱心に耳を傾けてくださいました。がんばって準備したので、真剣に聞いてくださったことが本当に嬉しかったです。また、先輩方の発表はテーマも内容も工夫されていて、私たちも来年こんな風に充実した発表をしたいと、とても勉強になりました。

でも何とんでも、先輩方に一番力をいただいたのは部活動です。二年生のプレーヤーは私一人で、正直なところ心細くて、いつも不安でした。私一人のために先輩を煩わせてしまっているのではないか、足手まといになっているのではないか…。練習や試合では数えきれないほどミスをしてしまいました。それでも先輩は私を責めたりせず、丁寧にアドバイスをしてくれました。私が出向いているとき、泣いているときには、強く背中をおしてくれました。引退した後も練習に来てくださったり、一人で練習している私を気にかけてくださいました。叶うなら、もう一度、先輩と部活動がしたいです。先輩は私の憧れです。プロの選手より先輩のほうが私にとっては憧れの存在です。プレーヤーとしてはもちろん、人として心から尊敬しています。私も、今は先が見えなくて苦しい気持ちもありますが、先輩のように強くなれるよう、がんばります。先輩と出会えて、私は幸せです。先輩に支えていただいて今の私があります。本当に、本当にありがとうございました。

明日からは私たち二年生が先頭に立ち、後輩たちの手本となる番です。まだまだ心細さが残りますが、先輩方から学んだことを胸に刻み、後輩を導いていけるように努力していきます。

明日からそれぞれの人生を歩き出される先輩方。この先には道が険しく、くじけそうになることもあるかも知れませんが、そんなときは、マイナスの気持ちにマイナスを足し算するのではなく、プラス思考で乗り越えてください。そして、この松蔭高等学校で学んだこと、かけがえのない日々を思い出してください。三年間を共

に過ごした仲間や心強い先生方が、きっと支えになってくれます。そして微力ながら私たち後輩も応援しています。先輩方の明るい笑顔で、これから進む未来を照らしてください。

思い出と感謝の気持ちがつぎつぎにあふれ、名残が尽きません。お別れは寂しいですが、先輩方の門出を心より祝福したいと思います。

最後に、皆様方のご健康とより一層のご活躍をお祈り申し上げて、お別れの言葉といたします。

在校生代表 東 芙美華

## 卒業生 答辞

厳しい寒さだった冬の終わりが見え始め、柔らかく暖かな春の日差しを感じるこの良き日に私たちは門出を迎えることができました。

本日は私たちのために、このような心温まる卒業式をあげていただき、卒業生一同、心より感謝いたします。

三年前、新型コロナウイルスが猛威をふるい始めた頃、私たちの高校生活の幕が上がりました。緊張しながら迎えた式のあとに告げられたのは、次の日から休校期間に入ることでした。高校生活の第一歩、最も重要な時期に訪れた休校期間。それは、私たちが新たな環境に戸惑いつつも、仲間と交流を深め、これから先の高校生活の足固めを築くはずだった時間です。その時間が失われたことは、今でも悔しさが込み上げてきます。

しかし、休校期間が明けて、さまざまな規制がある中ではありましたが、本格的に授業が開始されていきました。入学式以来、顔を合わせていなかった仲間との再会。休校期間中の課題でしかやり取りがなく、まだ顔もわからなかった各教科の先生方との出会いが、これまでの借りを返さんばかりの目まぐるしきで、高校生活に彩りをもたらしてくれました。

そんな異例のスタートを切った私たちですが、五月に行われるはずだった体育祭、それに続く宿泊行事の林間学校。そして楽しみにしていた文化祭といった行事は、悉く中止となり、体育祭においては、とうとう私たちは経験することなく卒業を迎えることになってしまいました。

しかし、行事がつぶれたとはいえ、私たちの高校生活がすべて台無しになったわけではありません。授業の合間の休み時間の何気ない会話、採点結果を見て一喜一憂したであろう定期考査、また切磋琢磨し互いに成長してきた部活動、そんな何の変哲もない毎日の積み重ねが私たちにはあります。私たちが持っている思い出の引き出しの数は、確かに今までの先輩方よりは少ないかもしれませんが、しかし、私たちはその分、毎日の積み重ねを大切にしてください。

そして、そのように過ごした甲斐あってか、二年生以降は、一部の内容変更や規模の縮小はありながらも、球技大会や文化祭が実施されました。文化祭では、初めて自分たちで企画した「お化け屋敷」で大成功を収めました。装飾がうまくいかず、かなりの時間を費やし、自立してくれない段ボールの組み立てに、「ああでもない、こうでもない」と、試行錯誤したこと。クラスメイトとこんなにも真剣に作業したのは、それが初めてのことでした。当日には大盛況となった自分のクラス企画がとても誇らしかったです。また修学旅行の代替として、八景島シーパラダイスへの遠足を実施していただき、「あまり集団で遠出をしてはならない」という暗黙の考えがあった中で、みんなと遊びに行けた経験は、とても貴重な時間でした。アトラクションに何度も乗ったり、時間ギリギリになってもお土産屋さんを離れず、集合間際になって両手いっぱいにお土産を抱えて集合場所に来る子、時間を惜しんで楽しめたこと、とても良い思い出となっています。このように、私たちの我慢が報われてきているのだと感じる機会が増えていきました。そして、これらの行事ごとに私たちの団結も深まっていき、高校行事の楽しさや大切さを噛みしめました。私たちの高校行事は、「密を避ける」という約束事がずっとありましたが、喜びや楽しさを、すぐ近くで、みんなと分かち合うことは、本当に大切なコミュニケーションだと学びました。

高校生活を語る上で、次は少しだけ私の話をさせてください。

私は松蔭に入学し、部活動をとても楽しみにしていました。「放課後に全力で練習して、クタクタになって家に帰るのだろう。でも文武両道で頑張るぞ」と。そんな生活を思い描いていました。しかし、緊急事態宣言が解除されたあとも、部活動はせず、授業を終えたら、まっすぐ家に帰る。そんな生活が続きました。高校生活の中で部活動を頑張りたいと意気込んでいた人は多かったと思います。部活動ができないもどかしさという

のは、とても虚しく、物足りないものでした。きっと同じ思いを抱いていた人が、私の他にもたくさんいたと思います。

私がふと、充実さを感じる事ができたのは、弟が同じ高校に入学し、同じ部活動に所属したことにありました。私に、やっと「後輩」という存在ができ、共に活動できる仲間や時間を手に入れることができたからです。これまでは、放課後毎日友達とすぐに下校していましたが、授業が終わってもそのあとには部活動がある。「今日部活あるから、一緒に帰れない！」とその日に部活動のない友達に告げる。この小さな変化が、私の中では「高校生活しているなあ」と思える、やっと手に入れた充実でした。この充実を、私は思い切り楽しみ、文化祭では、舞台発表を成功させ、文化祭企画大賞二冠の座を手に入れました。我慢した日々があって、積み重ねた努力が報われたことは、とても喜ばしいことです。在校生の皆様には、努力を惜しまず、思いっきり高校生活を過ごしてほしいです。もちろん、すべての努力が報われる結果となって返ってくるわけではありません。実際に、努力に合わない結果に悔しがる友達も見てきました。しかし、「やらない後悔より、やって後悔した方がよい」という言葉があるように、やって後悔した方が、努力したという事実が残り、次はどうすれば良いかというヒントが得られたりするものです。私たちは「頑張りたいのに、してはならない」というもどかしさを経験してきました。だからこそ、まだ高校生活が続く在校生の皆さんには、行動できる今、努力を惜しまずに高校生活を過ごしてほしいと強く願っています。

ここまで思い出を振り返ってきましたが、卒業生を代表して、高校生活を支えてくださった方々に感謝の言葉を送りたいと思います。私たちが、高校三年間、学校に通い、今卒業を迎えられたのは、何よりも両親の存在があったからです。つらいことがあったとき、相談に乗ってくれたり、受験の時期にも当たり前のように懸命に支えてくれました。そんな両親の存在が、私には頼もしくて仕方がありませんでした。普段は恥ずかしくて絶対に言わないことなので、この機会を使って、述べたいと思います。この言葉はいつもの呼び方で失礼いたします。

私が今こうして、充実した生活を送ることができるのは、父ちゃん、母ちゃんのおかげです。ここまで支えてくれて、育ててくれて、本当にありがとう。おそらく、こんなにもしっかりと感謝の気持ちを言葉にするのは、こんな機会でもないかぎり、そうそうありません。また明日から、今までと変わらないように接し生活するでしょう。しかし、感謝していることは本当ですし、その恩返しのためにも、自らの夢に向かって駆けていくので、安心してください。でももう少しの間、支えてほしいなと思っています。

そして、私たちを支えてくださった先生方へ。私たちのことを三年間近くで支えてくださってありがとうございました。それぞれの先生方の授業は、ときに真剣に、時には笑いを交えて楽しく学ぶことができました。ただ一つ心残りなのが、そんな先生方と、もっと自由に過ごし、思い出を残したかったということです。まさかコロナの猛威がこんなにも長引くとは思っていませんでした。しかし、そんな中でも様々な工夫を凝らしながら、私たちの高校生活を支えてくださった感謝は、溢れんばかりです。私たちの生活を守ってくださり、ありがとうございました。

さて、今日まで続いた高校生活がとうとう終了します。休み時間になるたびに友達と騒いでいたような日常がなくなると思うと、やはり寂しいものです。しかし、今日は皆がそれぞれの選んだ道へ進むための、いわば晴れの日でもあります。涙を流すのではなく、笑って旅立った方が良いに決まっています。だから、皆さん、今日はたくさん笑いましょう。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、諸先生方と皆さまの末永いご発展を願いつつ、卒業生を代表して、お別れの言葉とさせていただきます。

卒業生代表 長 秀嗣